

平成31年度（令和元年度） 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (書面での実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの個性・可能性の開発と伸長が図れる教育課程を実践し、自立した個人として必要な社会実践力を身につけさせる。 ②「学ぶ」楽しさを意識した不断の授業改善に取り組む。	①基礎・基本の定着につながる学習支援システムを展開する。 ②「わかる授業」作りにつながる組織的な授業改善に取り組む。	①1年生対象の学習サポートは引き続き週2回のペースで実施し、参加して欲しい生徒への声かけを工夫する。 ①2年生については、ニーズを的確に把握し、効果的な運用を検討する。 ②教科の枠を超えて授業を観察し合い、意見交換を行う等、個々の授業改善に役立つ環境を作る。 ②ICTの積極的な利活用とUD化をさらに推進する。	①参加率を高めるための新たなしくみはできたか。 ①参加して欲しい生徒の声掛けは工夫できたか。 ①学習支援ボランティアとの情報共有会議を各学期1回以上できたか。 ②新たな組織的授業改善の取組の下、職員の授業改善に対する意識の向上が見られたか。 ②ICTの積極的な利活用とUD化は推進できたか。 ②新たに導入した8台の大型ディスプレイの活用状況はどうか。	①継続して参加する生徒が20名前後いた。成績不審者への声掛けに努め、成績優良者も積極的に参加するなど良い影響をもたらしている。 ①2年生については長期休業中等を利用して複数の教科で個別に対応し実施できた。 ②ICTを積極的に活用する授業が増え、生徒たちのやる気を引き出している。	①参加人数は昨年度同様であった。成績上位者への声掛けも検討し参加率アップに繋がった。 ②2、3年の教室にも、プロジェクターとスクリーンの設置が必要。 ②多くの授業見学をきっかけに教科横断的に教材研究に生かせるよう、職員間のコミュニケーションが図れる時間の確保が必要である。	①学習サポートの「学習ボランティア」の参加状況が昨年に比べ大幅に落ちている！なぜなのかを分析する必要があると思います。 ②授業改善に日々取り組むのは教師としては当然のことで、今後さらなる精進を期待します。 ②ICT活用は目的に応じて効果的に使うことが大切で特に高校生は表現を助けるプレゼンテーションツールとしての利用を増やすことがよいと思います。	①学習サポートについては、生徒の参加状況が昨年度に比べて落ちていることは課題である。継続して参加している生徒の成績が確実にアップしている状況は評価できる。 ②ICTを積極的に活用して授業の充実に繋げている職員の数が確実に増えていることは成果である。	①学習サポートの参加者数の向上については1年間を通じて声掛けを行っていく必要がある。また、2年生についても参加を認めていきたい。 ②組織的な授業改善については、今後も職員により多くの研修に参加させ、授業力の向上に繋げていく必要がある。
2	生徒指導・支援	組織的な支援体制により、生徒一人ひとりが落ち着いて学習に取り組める環境を整える。	①全職員による一斉指導を展開し、生徒の問題行動等未然防止に取り組むとともに基本的な生活習慣と社会規範を身につけさせる。 ②コア会議・ケース会議・生徒支援会議とボーダーカフェとの連携を活用した教育相談体制により、チーム支援に取り組む。	①2年間に及ぶ問題行動等未然防止推進校としての成果を活かし、HR指導や教科指導等に取り組む。 ①「笑顔と思いやり」を合言葉に安心・安全・健全な学校を目指す。 ①引き続き、部活動加入率増加を目指す。 ②SC・SSW・SCC・SM、さらにはカフェ個別相談(どろっぴん)との生徒情報の共有を密にし、昨年度同様、特にいじめ防止のアンテナを高く、全職員による教育相談・チーム支援に取り組む。	①HR指導や教科指導等を含めた全職員による一斉指導により生徒の問題行動等の未然防止に一定の効果がみられたか。また生徒の基本的な生活習慣と規範意識に向上は見られたか。 ①「笑顔と思いやり」は浸透したか。 ②SC・SSW・SCC・SM・カフェ個別相談(どろっぴん)との生徒情報共有や連携は密であったか。 ②生徒の課題に関して、情報を共有することで、早期発見・早期支援に繋がることができたか。 ②いじめ防止に関する職員研修を実施することができたか。	①全職員による一斉指導は「笑顔と思いやり」を合言葉に、丁寧な声掛けに取り組んだことで、問題行動等の未然防止にはある程度の効果があった。 ②教育相談では昨年度の1.5倍のカウンセリングの申し込みがあり、実施後はSCやSSWと担任や教育相談COとで情報共有を行い、早期に継続的に支援することができた。	①カフェの個別相談(どろっぴん)利用者が少なかったのか、生徒情報共有が少なかった。カフェには顔を出すが、騒いでいる生徒や嫌な子がいることで、退室してしまう生徒がいるのも現状であり、本来の意味で「居場所のない生徒」に対する対応が課題である。 ①依然として一部生徒の規範意識が欠如しているのは検討課題である。コミュニケーションと理解力にやや問題がある生徒をどう指導し、また保護者への働きかけをどう継続していけばよいかは改善の必要性を感じる。	①全職員による問題行動等の未然防止の取組みは学校の負担は大きいですが、非常に大切なことと思う。「笑顔と思いやり」の指導を今後も続けて欲しい。一部生徒に規範意識の欠如が見られるが、規範意識は社会生活上不可欠なことゆえ、保護者との連携を密に、根気強い指導をお願いしたい。 ②力を入れてきた相談体制の充実と居場所づくりについては大和東高校の肝だと感じてきた。個々に寄り添い、ともに前に進んでいくことはとても地道で根気のいる作業ですが、学校の雰囲気を作る大切なことと思う。	①全職員による日々の粘り強い指導は効果を上げているが、指導が伝わっていない生徒もおり、その対応が課題である。また、部活動の加入率は向上しなかった。 ②SC,SSW,SCC,どろっぴんなどの本校の様々な相談体制はフル稼働の状態であり対応する職員は大変だが、コア会議での情報共有のもと迅速かつ適切に生徒対応が行えた。	①日々生徒の観察に努め、気が付いたことを早期に情報共有することの重要性を改めて認識し、日々の授業等の場面で粘り強く指導していく必要がある。 ②SC,SSW,SCC,どろっぴんなどを活用した相談体制の一層の充実を図りつつ、スクールメンターの有効な活用方法を考えていく必要がある。
3	進路指導・支援	自立した個人として自己のキャリア意識を高め、社会と関わり貢献できる生徒を育成する。	①総合的な学習の時間を中心とした3年間の系統的なキャリアプログラムを実践・検証を継続する。また朝読書を進路実現ため	①1年生のキャリアプログラムの改善を図り、地域社会・生徒とも満足度の高いものとする。 ①2・3年生のキャリアプログラムの着実な実施と検証をする。	①1年生のデイキャンプや社会体験が前年度を上回る参加率や満足度となっているか。 ①2年生のアンケートを2回実施し検証できたか。 ②大和法人会や多くの事業所に本校の特徴を理解していただくことが	①デイキャンプについてはほぼ昨年並みの参加率であったが、社会体験で全日程欠席者は2%であり大幅に向上した。 ②受入れ希望企業すべてに生徒を送ることができた。	①デイキャンプや社会体験の目的を生徒にきちんと理解させ実施する必要がある。 ②新規に受入れていただける企業が増えてきているので、本校生徒の特性や目的・内容の説明の仕方を考えていか	①キャリア教育については中学校でも「職場体験」という名目で活動している。中学校と情報交換をし、中学校のさらに上を目指すのか、または中学校とは別の取り組みとするのか検討してみようか。	①3年間の系統的なキャリアプログラムについては、1年次の「職業体験」を経て、より内容の充実したプログラムにしていく必要がある。	

	視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (書面での実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			に効果的に活用する。 ②地域・社会と連携したキャリア教育実践プログラムにより生徒の社会実践力を高める。	②大和法人会と連携し社会体験プログラムをより充実した内容で行う等、外部資源を活用し、生徒の職業観・勤労観の育成を図る。 ②進路室・SCCの効果的な活用を図り進路実現につなげる。	できたか。 ②大和法人会や協力企業からの要望等を反映させてプログラム運営の改善ができたか。 ②就職希望の3年生のSCCの活用度が80%をこえているか。	②SCCと職員の連携、および情報共有を良好に行うことができ、生徒の進路室の利用の拡充に繋がった。	ねばならない。 ②進路室の環境を、より指導・活用しやすく整えていく必要がある	②SCCの活躍、素晴らしいですね。雇用の維持が課題と感じます。成果をアピールするとともに待遇面の改善も検討するよう教育委員会にアピールを！！	②地域・社会との連携については、大和法人会等の外部団体・機関との連携が深まり、より効果的に様々な行事に協力していただけだ。	②地域・社会との連携によるキャリアプログラムは、関係団体との連携のもと、より充実したものととなるよう取り組んでいく。
4	地域等との協働	保護者や地域との協働による学校づくりを推進し、人と社会と未来につながる開かれた学校づくりを推進する。	①学校説明会やHP等を活用した情報発信により、教育活動に有効な外部資源との連携を強化し、推進する。 ②学校運営協議会制度を活用し、外部評価を取り入れた教育活動を推進する。	①ボランティア活動において生徒に広く周知するとともに、社会福祉協議会やボランティアセンターと連携し継続的な活動をしていく。 ①学校説明会やHP、公式ツイッター、まちcomiメールなどの様々なメディアを駆使して、保護者や地域とのつながりを強化するための効果的で継続的な広報活動を行っていく。 ②2期目(3年目)の学校運営協議会(やまひが協議会)と実働5部会が連携し活動し、学校運営の充実を図る。 ②生徒防災委員を中心とした実践的防災教育を継続するとともに、コミュニティー・スクールの特性を生かしたプログラムを実践し、地域とともに全校生徒の防災意識のさらなる向上を目指す。	①大和青年会議所と連携することで、生徒のボランティアに対する意識を向上できたか。 ①地域とのつながりによって行われている教育活動の様子を効果的・継続的に発信することができたか。 ①学校説明会や体験授業、部活動体験の工夫で、クリエイティブスクールの特徴や魅力を伝えることができたか。 ①学校説明会や個別相談会で延べ1600名、中学校訪問50校、公式ツイッター250件の発信はできたか。 ②新しい委員とともに、計画どおり、やまひが協議会と各部会を運営することができたか。 ②5つの部会がそれぞれの委員と連携を図れたか。 ②生徒参画型防災訓練・生徒DIG研修会・宿泊防災訓練は、地域と連携して実施できたか。 ②災害発生時の家族との連絡方法や防災備蓄品についての知識が深まるような取り組みを実施できたか。 ②生徒・職員の防災意識は高まったか。	②全校一斉グループワークを実施し、様々な防災に関する知識を深めることができた。 ①クリエイティブスクールの特徴を活かし、中学生にも理解できるように工夫した授業や部活動の体験を実施し、参加者から本校の特徴や魅力を理解できたとの回答を得た。 ①大和青年会議所と連携し、新たな活動先を開拓することができた。手話講話の実施も含め生徒の福祉に対する意識向上を図った。	①第2回学校説明会で行われる体験授業については早い時期から実施教科を決めるとともに、教科内で効果的な体験内容を考える必要がある。 ①公式ツイッターの活用や活動報告を実施し、より多くの生徒のボランティア参加を促し、生徒の進路活動に生かす。 ②本校の防災教育への取り組みについて、地域自治会への周知方法を検討すべきである。	①地域行事等への参加は常時呼びかけ実施団体からも定期的に声をかけられるように仕組作りをすることでお互いがうまくゆくとおもいます。 ②防災教育という核となるものを置いて地域で活動されたこと大変参考になり感謝申し上げます。コミュニティースクールの運営とともに、私自身大変参考になりました。 ②色々な角度から地域の方の協力が大きな力となっている事が良く分かりました。 ②防災教育などへの先進的な取り組みには敬意を表したいと思います。 ②防災教育は、地域と連携した取り組みが大切である。本校は3年間の取り組みにより、生徒の防災意識が高まり、地元自治会や行政との連携も密になった。この成果は、他校の参考になるので、積極的に発信して行って欲しい。	①今年度は新たに大和青年会議所との連携が始まり、生徒のボランティア先を新たに開拓できたことは成果である。また、これまでの反省を踏まえ、より充実した学校説明会を実施したことにより、本校の魅力を効果的に外部に発信することができた。 ②学校運営協議会も2期目に入り、協議会では毎回活発な議論がなされるなど、協議会の活性化が進んだ。また、防災教育については、DIG訓練を担当が講師となり生徒に指導できるようになるなど、確実に職員の防災に対する意識の向上が見られたことは成果である。	①年間3回実施する学校説明会や個別相談会をはじめとして、ツイッターでの情報発信や中学校教員対象の説明会などの機会が充実していることから、これらを効果的に活用し、中学生と保護者の本校に対する正しい理解をしてもらえるように一層努力する。 ②学校運営協議会では、部会ごとの意見交換を行うなど、委員と教職員との意思疎通を図っていることから、今年度はそこでの意見を実際に具体的な取り組みに繋げていく必要がある。
5	学校管理 学校運営	すべての職員が学校運営の主体としての意識を共有し、一体となって教育活動に取り組む組織づくりを行う。	①私費会計及び進路関係の書類の発行業務の事故防止に努める。	①事故防止研修会などの機会を年間を通じて効果的に設けることで、事故防止に対する職員の意識の向上を図る。	①調査書を始めたとした進路関係の書類の発行業務をミスなく行えたか。 ①私費会計業務全般について、会計監査や財務事務調査時の改善指摘事項が前年度よりも減少したか。	①7月に総合教育センターより講師を招き、「適切な私費会計について」をテーマに職員対象の不祥事防止研修会を実施した。 ①12月に校内に不祥事防止検証チームを立ち上げ、全職員を対象に「不祥事防止のためのアンケート調査」を実施した。	①講師が学校の実態に応じたわかりやすい資料を提示しながら、私費会計の間違いやすい箇所を指摘していただき、大変有意義な研修会とすることができた。 ①不祥事防止のためのアンケートを行うことで、職員に改めて不祥事防止に対する意識の涵養を図るとともに、職員から不祥事防止に向けて具体的な意見を提出させた。	①人材育成や危機管理と難しい課題が多くありますが、チームで相談する中でベストな方策を実施していただけたと思います。 ①“4年間の目標”に対して“1年間の目標”及び“具体的な方策”がかなり限定されているような気がします。マネジメントの対象を広げ教職員の主体性を高めることでクリエイティブの質を高めることが出来ると思う。	①調査書をはじめとした進路関係の書類の発行業務については、管理職のチェックは必ず裏付けとなる資料との照合をすることを徹底し、事故を防止できた。また、私費会計に特化した職員対象の不祥事防止研修会を実施した。	①調査書発行業務については、職員が毎年代わることから、引き続き事故防止に向けて職員を指導していく必要がある。また、私費会計については、ルールについての理解が十分でない職員が散見されることから、継続した指導が必要である。